

科目名 小児看護学実習 時間割表記名 小児看護学実習	配当時期 3年次 単位数 2単位 時間数 90 時間(11 日間)	講義担当者 高木佳寿美
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 小児とその家族の理解と、成長発達や健康障害に応じた適切な看護が実践できる。 【実習目標】 1. 小児の各発達段階にある対象の、身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. 小児とその家族の抱える健康問題を捉え、小児の健康障害と発達段階に応じた看護の実践ができる。 3. 小児を取り巻く環境や多職種連携・協働の実際を知り、継続看護のあり方と看護師の役割について理解できる。 4. 小児とその家族の関わりを通して尊重する態度を養い、専門職業人としての態度を身につけることができる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。		
実習の流れ 本実習では、小児が一個人として人格をもつ存在であることを理解し、小児の成長・発達、健康の段階に応じた看護ができる基礎的能力を育成することをねらいとする。小児看護学実習の対象は、乳児期から思春期までとする。 「健康な小児の理解」では、各発達段階の健康な小児の成長・発達と基本的な生活習慣獲得のための生活援助、社会性を育むための支援を学ぶ。地域で生活する子どもの成長・発達を学習するために、2 日間の保育園、幼稚園、子ども園での実習を行う。 「健康障害をもつ小児の看護」では、健康障害のある小児の特徴を理解し、健康障害により入院を余儀なくされることが、小児の成長・発達や基本的な生活習慣の獲得にどのような影響をおよぼすかを学習する。また、生涯にわたって治療を必要とする小児や、障害をもちながら生活する小児とその家族への看護を学ぶ。小児科病棟および小児科外来を 6 日間、重症心身障害児病棟で 3 日間の実習を行う。 「健康な小児の理解」「健康障害をもつ小児の看護」をもって、小児とその家族を理解し、成長発達に応じた適切な看護が実践できる小児看護の基本的な技術を学習する。		

評価

ルーブリックに沿って評価する。

使用するテキスト

- ①系統看護学講座 専門分野 小児看護 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
- ②系統看護学講座 専門分野 小児看護 2 小児臨床看護各論 医学書院
- 他 既習のテキストを活用する